

まちづくりの勉強会（第1クール、第1回～第5回）開催報告

1. 目的

高山の未来のために、どのような都市(まち)づくりを目指すのか。

市民と行政とがともに考え、議論を重ね、さらには研究する場として、多様な視点や新しい価値観を大切にした『まちづくりの勉強会』を定期的で開催し、都市づくりに関する知識の向上や将来の高山を担う人材の発掘、育成などを図る。

また、『まちづくりの勉強会』の活動の中で出された有用な意見等については、都市マスタープランなど各種まちづくり計画の見直しに活かしていく。

2. 題目

高山の未来のための都市(まち)づくり

～30年後(2050年)の高山、何を指して生きるんや～

3. 開催日等

第1回	8月29日(水)	高山市役所(201・202会議室)	参加者25名
第2回	9月29日(土)	飛騨高山まちの博物館 研修室	参加者22名
第3回	10月31日(水)	高山市役所(201・202会議室)	参加者20名
第4回	11月28日(水)	高山市役所(行政委員会室)	参加者22名
第5回	12月26日(水)	高山市役所(行政委員会室)	参加者25名

4. 参加者属性

第1回～第5回までののべ参加人数 114名

1回あたり平均人数 23名

実参加者(1回以上参加) 43名

実参加人数の内訳 男性28名(65%)、女性15名(35%)

10代:2名、20代:2名、30代:9名、40代:13名

50代:9名、60代:6名、不詳:2名

各回平均参加(のべ人数/5回)男女と年齢別

男性15.6名、女性7.2名

10代:0.4名、20代:0.8名、30代:4.2名、

40代:8.0名 50代:5.2名、60代:3.6名、

不詳:0.6名

5. 各回の進め方

第1回～第3回 コメンテーターによる発言及び全体討議

討議の結果、3つの大きなテーマが絞り出される。次回は、3つのテーマ+新たな視点(まちづくり)を加えた4つのテーマでグループワークを行うこととした。

第4回 テーマ別によるグループワーク(4グループ)

第5回 第4回と同様のテーマ別でグループワーク(中間まとめ)

6. コメンテーターの顔ぶれ

第1回コメンテーター

高校生 (10代)
事業者 (30代)
主婦 (30代)
公務員 (50代)



第2回コメンテーター

事業者 (30代)
事業者 (40代)
公務員 (40代)
事業者 (60代)



第3回コメンテーター

伝統工芸士 (20代)
団体職員 (30代)
木工職人 (40代)



7. 絞り出されたテーマ

= テーマ別と特徴的な発言キーワード =

○継承する都市(まち)づくり

- ・ 飛驒の良さは、AIにとってかわれないものである
- ・ 世の中が変わっても、そこに住む人の「DNA」は残っていく
- ・ 自分のルーツを知ることが大切 (アイデンティティ)
- ・ 30年後は原点回帰しているのではないか

○情報化と都市(まち)づくり

- ・ 2050年には「リアル」に「バーチャル」が加わる
- ・ 飛驒の地でも何でもできる。30年後は「遠い」という言葉は必要なくなる
- ・ 当たり前前は機械がやる。当たり前でない(失敗もあり)ことを人がやる時代になる
- ・ 人口減少しても、AIによって少人数でも生産性を上げられることから、致命的ではない

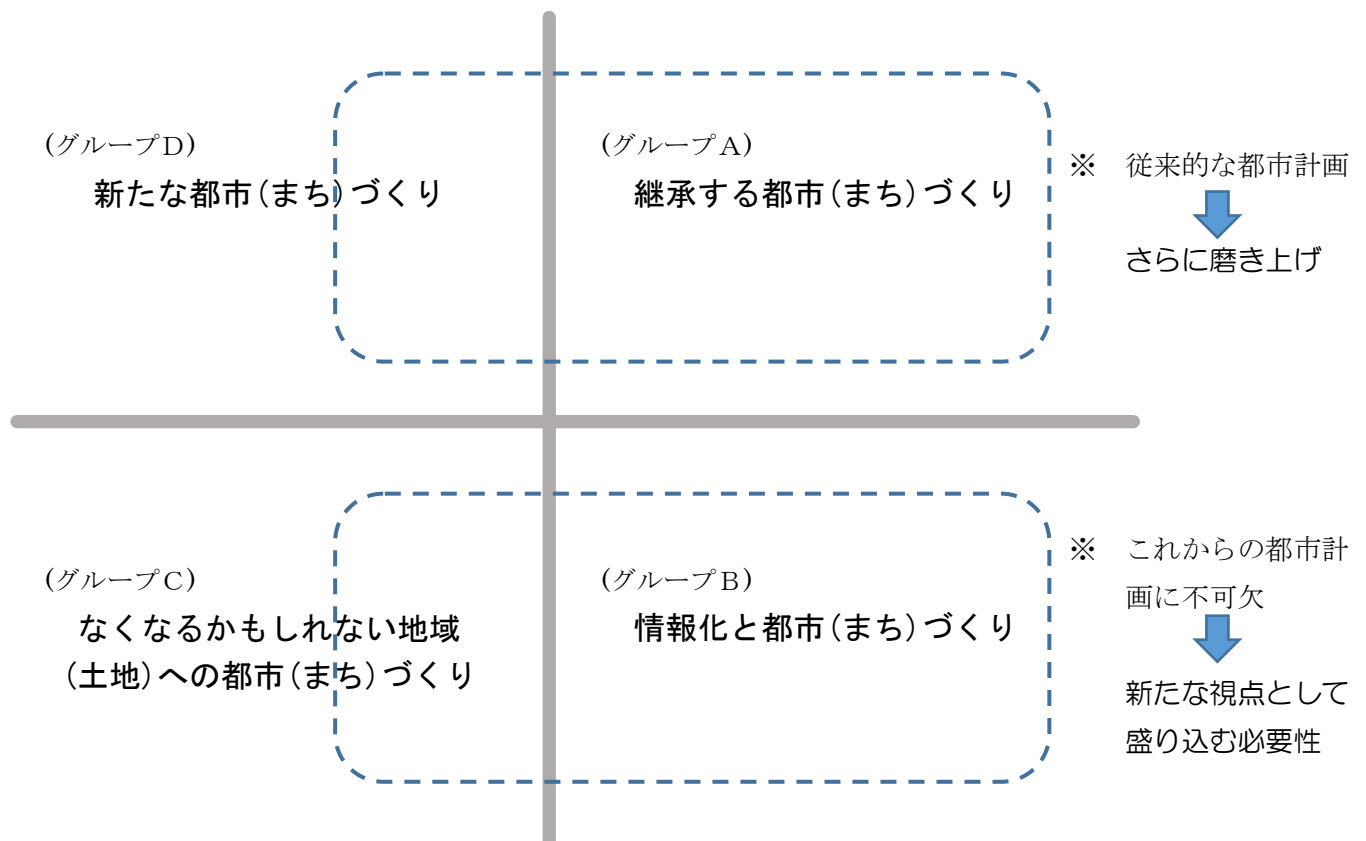
○なくなるかもしれない地域(土地)への都市(まち)づくり

- ・ 人口減少は確実であり、土地など所有者不明問題は確実に増えていく
- ・ 明治にできた制度は限界である
- ・ 地域コミュニティを大切にしつつも、住むところはコンパクト化し、多様な発展が必要
- ・ 将来、無人地域が発生することに対する覚悟と割り切ることが必要

+

○新たな都市(まち)づくり・・・その他の新たな視点

= テーマ別と特徴的な発言キーワード =



8. 第4回・第5回 テーマ別中間まとめ内容

○グループA テーマ『継承する都市(まち)づくり』

(30年後のイメージ)

人の暮らし

- ・移住者が増え、様々な価値観を認めつつ飛騨の文化を継承する
- ・人口減少により、周辺地域から高山地域（中心市街地）に人口が集中する
- ・交通網は発達し、観光はより競争化する

伝統・文化

- ・古民家の価値が見直され、住宅や商業施設に活用されている
- ・江戸時代（天領）の町並み、高山祭、屋台、おもてなしの心が残っている

飛騨人の心

- ・飛騨人のDNA「もの静かで慎ましく人に媚びない」「感謝されることに喜ぶ素直さ」
- ・雪下ろし等、町内で助け合う姿が緊密になっている
- ・地域のつながりを大切に守っている

匠

- ・職人の技が少数の人たちによって受け継がれている
- ・家具は世界の中で確固たるブランドとなっている

食

- ・子どもたちに対して郷土料理がしっかり伝えられている

子ども

- ・子ども連れの家族が、飛騨の自然の中で一緒に遊び学ぶ
- ・子どもが歩く姿が見られる

自然

- ・何気ない風景、土の香り、鳥のさえずりが聴こえる環境が変わらず残っている
- ・四季が感じられる山がある
- ・帰りたい、戻りたいと熱望する風景がある

(イメージを実現するために必要なこと)

- ・子どもの郷土愛を育てるため、小中学校での地域学習を行う
- ・若者が帰ってこられる受け皿づくりをする
- ・伝統・文化、高山祭、匠の技術、食文化等を伝え守る（大人も学ぶ）
- ・人と人とのつながりを大切にする



守り育てることが革新
温故知新



○グループB テーマ『情報化と都市づくり』

(30年後のイメージ)

- ・人口は確実に減っているが、緩やかな減カーブにする
- ・人は町の中心部で密集生活をしている（生活の効率化）
- ・中心部の外の地域では、観光や大規模生産が行われている（土地利用の効率化）
- ・IT、AIによって、人が運転しなくても移動できたり、人が物を持ってこなくても良い
ということで自由が効いたりする（物や人の移動の効率化）
- ・どこでも仕事ができる環境となり、UIJターンが多くなる
- ・AIやIOTにより、データが集めやすく、マーケティングがし易い

(イメージを実現するために必要なこと)

・ 正確な情報 の 収集 と 活用

鮮度

量

新たな強み

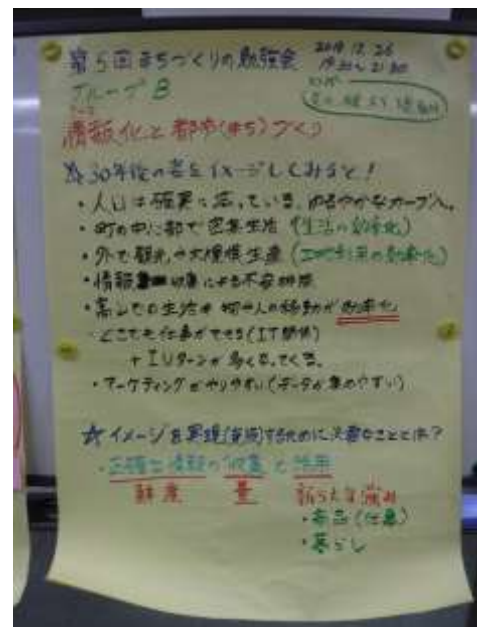
- ・商品（仕事）
- ・暮らし



- ・情報をシェアする体制を整える



- ・情報を収集することによって、外の地域の人々から、町の中に住むという不安、不便を取り除く。
- ・外の地域での土地利用、観光の情報発信



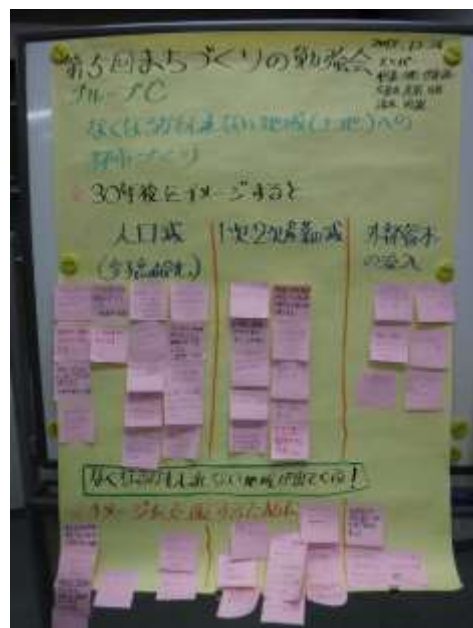
○グループC テーマ『なくなるかもしれない地域（土地）への都市づくり』

(30年後のイメージ)

- 人口が減り、少子高齢化が進んでいる
 - 人が住まない地域が出てくる
 - 歴史、文化が伝承できない
 - インフラの整備、維持管理が大変
- 1次2次産業（農業、林業、製造業）が衰退
 - 土地が荒れる、山林が荒れる
 - 道路が使えない
 - 災害が起きる
- 外部資本の流入
 - 乱開発等が行われる
 - 景観等、地域の特色が失われていく

(イメージを実現させないために必要なこと)

- 居住する地区の集約
- 積極的に管理する土地、そうでない土地の選別
- 資源の有効活用（農業：大規模法人化、木工産業：エネルギー、原材料の自給の推進、観光：支所地域の周遊）
- まちづくり、産業等いろいろなことにおいて、デザインを意識して取り組むことが重要
- AIやロボティクスを導入して効率化を図る
- 協働できる外部資本と一緒に土地利用、土地活用を考える
- **集約**と**選択**



○グループD テーマ『新たな都市づくり』

(30年後のイメージ)

「丹生川をモデルとして検討してみた」

- ・ 中部縦貫がつながり、東の玄関口となる
- ・ しかし、通過するだけで、人口は減り、山や田畑は荒れ放題
- ・ 町方地区や高山市街地に近い方に一極集中
- ・ 農村地域は限界集落、消滅するような地域になる

(イメージを実現させないために必要なこと)

- ・ 飛騨地域で一番農業ができる地域という位置づけをする
- ・ 中部縦貫が通っているだろうから、他地域から人が集まりやすい場所にする
- ・ 手つかずの雄大な誇れる自然があることを世界的にPRする
- ・ 中心部（町方、坊方など）に市街化させ、その周辺に農業地帯、さらにその周辺に自然、歴史を感じさせるものの良さをそのまま残し魅力化させる



- ・ 大事なことは、特徴付けをさせ、地域計画（ゾーニング）がしっかりとあるまちづくりを進めること
- ・ 他の地域にも同様のことがいえる



9. 次回以降の進め方

- ・今後も、さらに月 1 回程度ペースで開催
- ・但し、進め方については一旦見直し、新たな形で展開



(特に意識したい点)

- ・具体的に地域への落とし込みや具体的な事柄を意識
- ・データや地図情報を提供することで、データ裏づけ等内容を深める
- ・現地（まち歩き）に赴き、内容を深める



第6回～ まちづくりの勉強会 第2クールへ